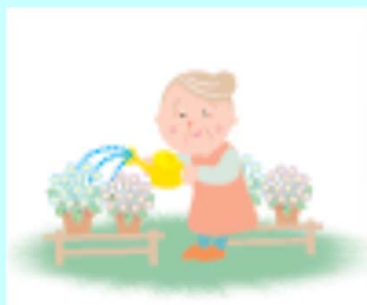


RISTEX戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)
コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン 研究開発領域

研究開発プロジェクト
**《高齢者ケアにおける
意思決定を支える文化の創成》**



評価委員会報告(2015.11.20)



研究代表者 清水哲郎

研究開発プロジェクトチーム＝

東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター
＋ナラティブ・ホーム（砺波市）

1. 研究開発目標（2-1/3-1）

☆〔最期まで住み慣れた地域で自分らしく生きること〕を妨げる要因と対策

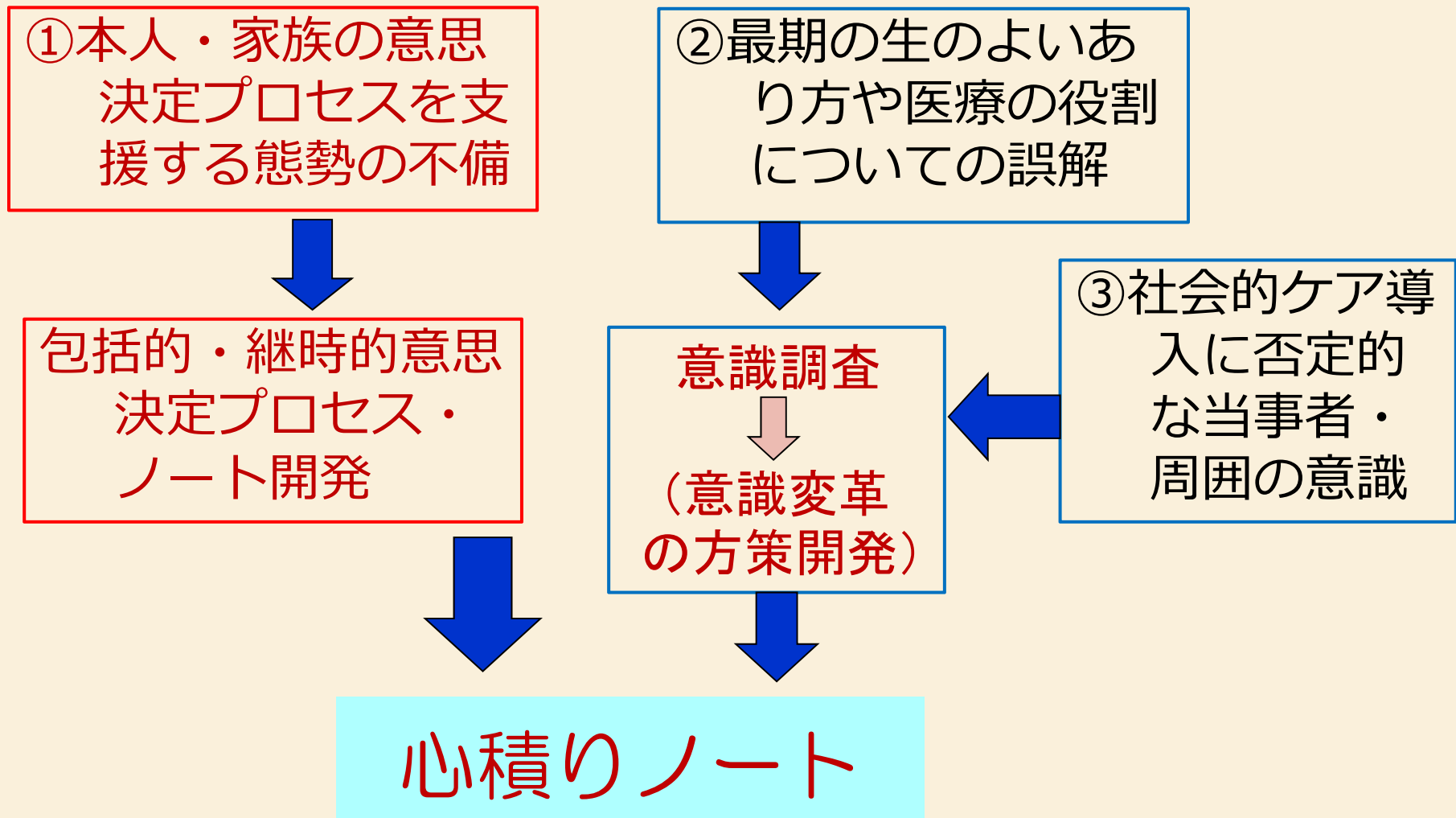
〔要因〕

- ①本人・家族の意思決定プロセスを支援する態勢の不備
- ②最期の生のよいあり方や医療の役割についての地域住民の理解の遅れ
- ③家族の介護負担軽減のための社会的ケア導入に否定的な当事者・周囲意識

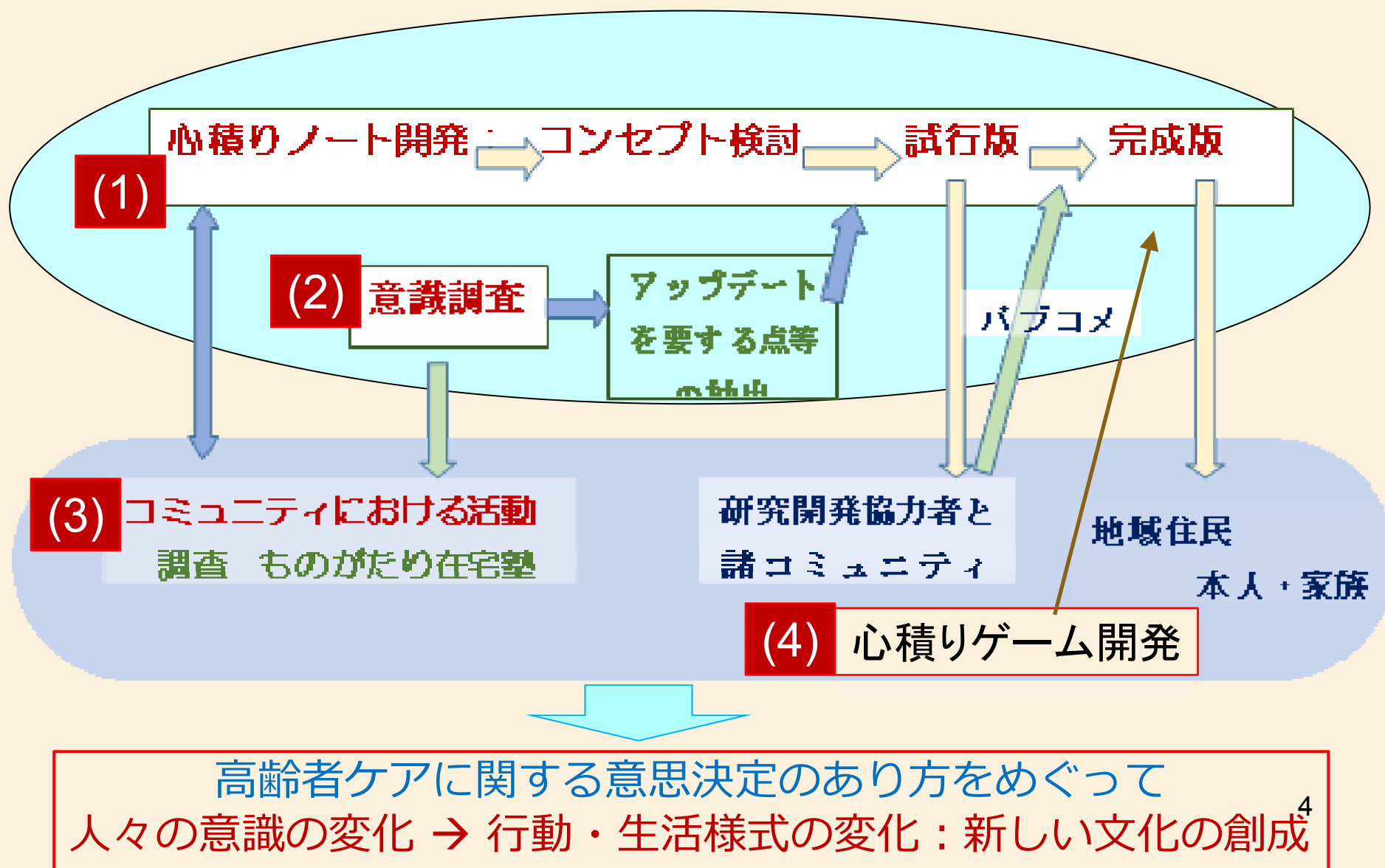
文化の問題と捉える

「最期まで自分らしく」を妨げる要因への対策

〔対策〕



2. 実施項目・内容 (2-2/3-2)



3. 研究開発結果・成果 (2-3/3-3)

- 3-1. 心積りノートの開発
- 3-2. 住民意識調査とその分析に基づく、意識変革促進の方途開発
- 3-3. コミュニティにおける調査協力および住民意識への働きかけ
- 3-4. 原田プロジェクト（みんラボ）による「心積りゲーム」開発

3-1 心積りノートの開発

(2-3(1)/3-3-1)

本人・家族の選択を支えるために

(1) 心積りノートコンセプト

包括的・継時的に本人・家族の意思決定
プロセスを支援するノート

- 「より長く生きることがよいことだ」
→ 「人生の充実（よりよく生きること）」
- 本人の意思 & 人生にとっての最善
 - 「自分で決める」 & 「皆で決める」
- 使ってほしい人
 - まだ元気な人 自発的に使う 家族と一緒に
 - 具体的に考える必要がある人 相談員・家族等と一緒に

本人・家族のための
意思決定プロセスノート

高齢者ケアと 人工栄養を考える

清水哲郎・会田薫子



医学と看護社

高齢者ケアと 人工透析を 考える

本人・家族のための
意思決定
プロセスノート

清水 哲郎 監修 会田 薫子 編集
大岡 由花 森田 凡 三浦 晴彦 竹山 敬雄 石橋 由幸 大塚 浩希



医学と看護社

心積りのための二つのポイント

高齢者ケアの 意思決定プロセス に関するガイドライン

人工的水分・栄養補給の導入を中心として

皆で一緒に
決めましょう

人生のために
生命を支える

医学と看護社

日本老年医学会のガイドライン
2012年6月公表

【構成】

第一部 医療・介護における
意思決定プロセス

第二部 いのちについてどう
考えるか

第三部 AHN導入に関する
意思決定プロセスにおける
留意点

①生命は人生のために

人のいのちの二重の見方

医療は、人生の展開のために土台である生命を整える



人生

物語られるいのち



生命

生物学的生命

② 人生のよさの尺度：「長生き」と「快適さ」

《よい人生》： 本人が「生きててよかった」と満足できる（本人の人生に注目して、最善を考える）

→長生き＝目的①

長ければ中身はどうでもいい？ 否

→快適な生活＝目的②

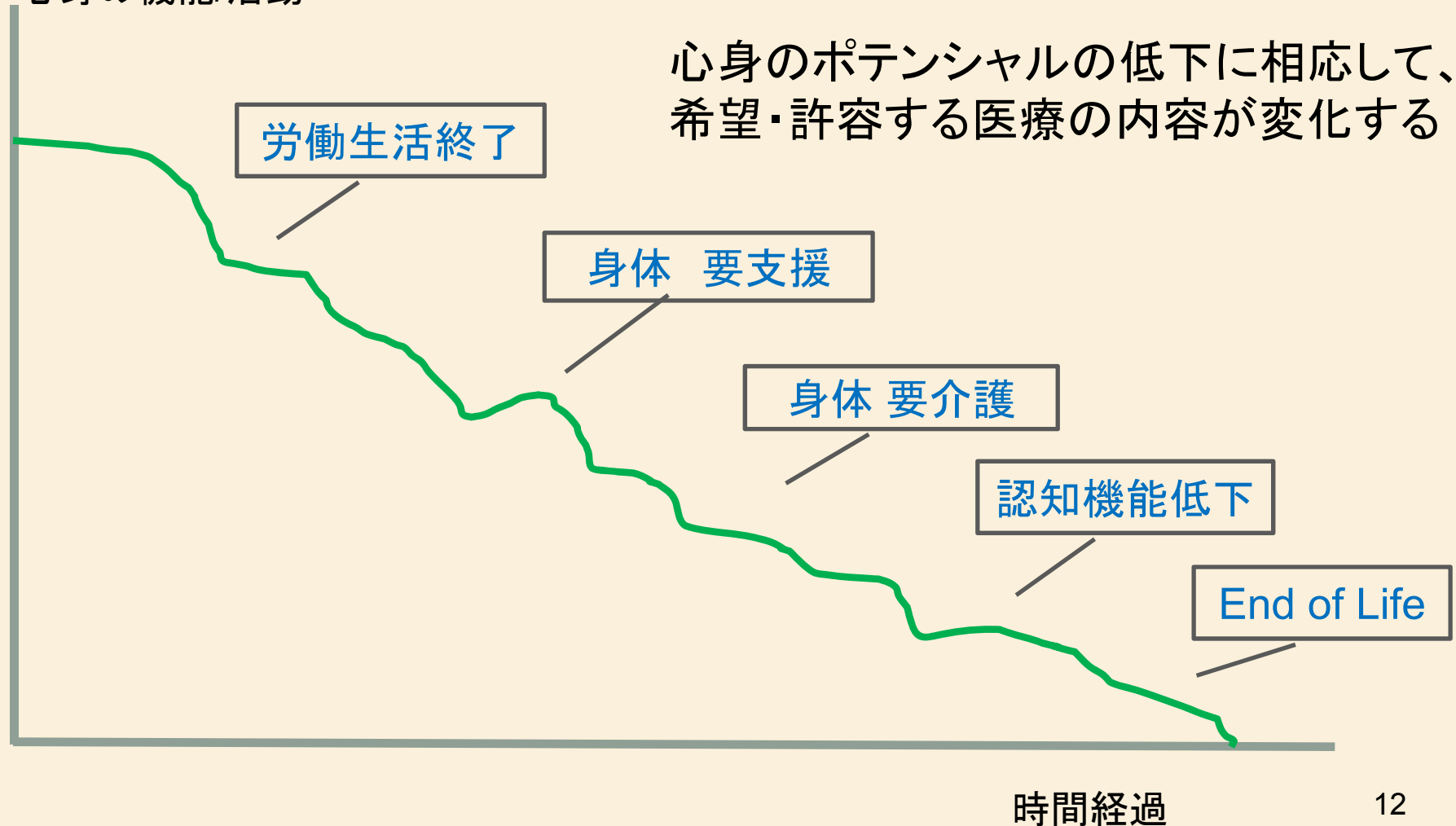
a. 苦痛がなく、楽に過ごせる

b. 残っている能力を発揮する機会がある

- 老いが進んでいる場合 まずは目的②（快適）、さらに目的①（長生き）も加えられたらラッキー
- まだ元気な場合 ①長生き↑ ②快適さ↓
 - － 長生きのために、快適さをどこまで犠牲にできるか

心身のポテンシャルの時間経過

心身の機能/活動



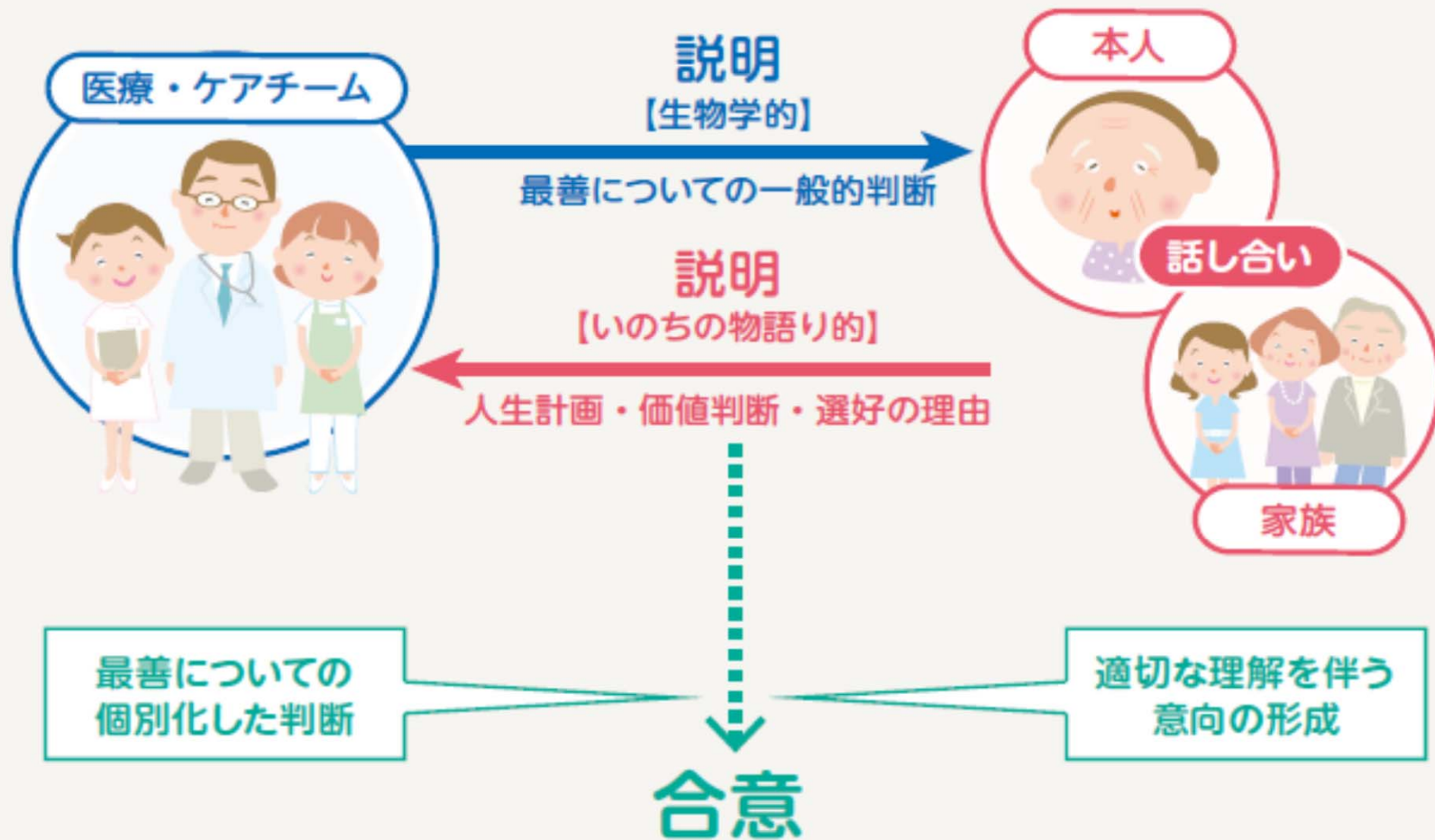
最期に向かった心の積みり

心身のポテンシャルの低下に相応して、
希望・許容する医療の内容が変化する

心身の機能/活動



③ 意思決定プロセス 情報共有-合意モデル



ACPの日本的改訂へ（副産物）

- ADからACPへ
 - AD advance directive 事前指示
 - 本人にとってよい？ 周囲の都合？
 - 「死ぬ時のことだけ考えさせる」
 - ACP advance care planning ケア計画事前策定プロセス
 - コミュニケーションのプロセスを重視しているのはOK
 - だが、米国流ACPは結局ADを目指している
- **ACPの目標を「今から終わりまでの心積り」へ**
：日本発の更なる一歩

(2) 心積りノート開発のプロセス

心積りノートの設計 具体化

老いの程度に相対的な治療の範囲をどう表現するか？
高齢者 & プレ高齢者が書く気になるためには？

試行版
作成→



パブコメ
↓
完成版へ



設計・具体化のプロセスで 老いの進行に相対的なケアをどう表現するか

- 今から最期までの経過において、受きたい・受けたくない治療の希望は心身の老化の進み方に相対的
- 心身の状況をタイプ分けする 《道標1～6》
- 治療の目的を選ぶ
- 具体的な受きたい・受けたくない治療のオプションをつける
 - － 快適さ 望ましい程度 許容できる程度

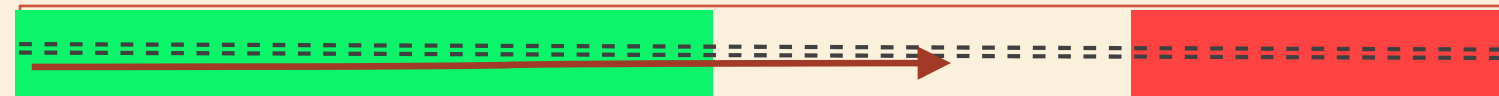
老いの進行に相対的なケアをどう表現するか (当初の枠組み)

本人の状態	・身体機能(ADL/要介護度の身体面) ・認知機能 ・生活における可能な活動 ・周囲とのコミュニケーション
治療とケアの方針:何を目指す治療?	目的の候補 ① 人生をより長く ② 快適な日々を ①+②が目指せるか? ② だけか? ①↑と②↓のバランスは?
治療がもたらす辛さ	①のためなら許容できる②↓ 許容できない②↓
受けない治療	もたらす効果にかかわらず、そこまではしない治療

老いの進み方の道標毎に治療・ケアの選択をする (当初の枠組み)

①	私の状態	身体&認知機能自立／働くことが可能／通常のコミュニケーション 交友広い
	治療とケアの方針:何を目指す治療?	①+②:内容のある充実した人生を長持ちさせるための治療を受ける ②↓も、それを克服して、それなりのリハビリができると見込まれる場合、受け容れる。
	治療による辛さ	○ 失声、永久気管孔、失聴、失明、四肢の一部の喪失
	受けない治療	角膜以外の臓器移植、ガンに対抗する、益の見込みが薄い治療

ケアのタイプ毎に老いの進み方を眺め渡して考える (枠組みの改訂)



医療側は**受ける**ことを勧める

医療側は**受けない**ことを勧める

老いの進み方には「臨床フレイルスケール」を採用

(3) 完成版 紹介→



〔ステップ 1〕 これまでの人生と 今後の生き方

(a) 自身の人生を振り返り、生き方・価値観を確認する

- 自分の人生の物語りを振り返って確認
- 今後の人生の方向について心積もり

〔ステップ2〕

(b) 老いの進み方の区分を理解し自身の位置を確認する

2-1 私の発達段階



- 区分には「臨床フレイルスケール」を取り入れた

ステップ2 今後の暮らしと活動

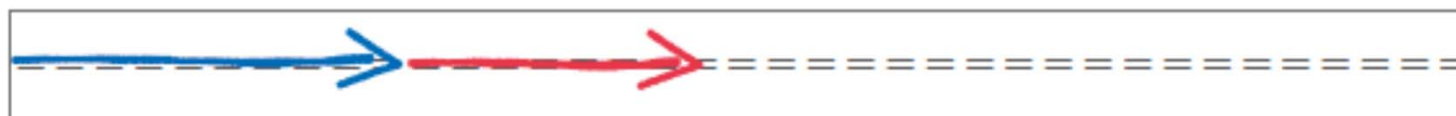
(c) 今後の暮らし方、今後の活動を心積りする

2-1 私の発達段階



2-2 発達段階に沿った暮らし（林野さんの記入例は省略します）

2-3 今後の活動



会社役員(常勤 週3日 8時間)

陶芸(週2日 3時間) → 鑑賞だけ

ステップ3 今後の治療・ケア

2-1 私の発達段階



医療側は受ける
ことを勧める

境界線はアナ
ログ思考で

医療側は受けない
ことを勧める

医学的見通しを理解 → 人生の観点での判断

治療・ケアについて心積りするテーマ

- 積極的な治療

 - ☆ 効果と後遺症

 - ☆ 効果と治療時の辛さ

- 生命維持

 - ☆ 水分と栄養

 - ☆ 人工呼吸器

 - ☆ 人工透析

- 快適さを目指すケア

 - ・ モルヒネ

 - ・ 鎮静

- 急変した時

 - ☆ 救急車

 - ☆ 蘇生

心積りノート記入編

- 今後、老いが進むにつれ、どうしたいかをアナログ思考で記入すると共に、随所に自由に記入できる
- 一緒に考えた人たちが、サインする場所がある
 - － 本人が考えたプロセスを保証
- 本人が意思表示できなくなった状態で治療を選択しなければならない状態になった時に、本人の意思を推定する材料になれるようにしてある
- 事前指示で求められている意思表示も含んでいる
 - － 老いが一番進んだ段階で、どうしたいかの部分

〔コラム〕 意識変革のツール

- 心積りをしていくプロセスで、意識変革が促進される
- プラス 諸処におかれたコラム
 - － 本人の視点 家族の視点
 - － 他人の世話にならないように生きるのがよい
 - － できるだけことはしてください
 - － 看取る家族の不安と希望

心積りノートがもたらすもの

- 人生の最期だけでなく、今後の人生全体を考える行動様式へ
 - 生命の延長ではなく、人生にとっての最善が基準になる → この価値観に基づく医療の標準的対応：行動様式の変化
 - 意思決定プロセスおよび治療選択をめぐる人々の意識 → 行動傾向の変化
 - 関係者が一緒に考える行動様式へ コミュニティにおける〈人それぞれ〉と〈皆一緒〉が適度にブレンドしたあり方
- 適切な意思決定を支える文化の創成

3-2 住民意識調査・分析→ 意識変革促進へ (2-3(2)/3-3-2)

(1) 聞き取り調査・参与観察

- H25 調査実行
 - ナラティブホームが患者を看取った家族への聞き取り調査 &
 - ナラティブホームの在宅ケア活動の参与観察
- H26 整理と分析 (補助調査)
(H27 報告書)
 - 介護する側も高齢者
 - 介護を担う嫁
 - 最期は病院・施設に委ねたい

(2) 庄東地区住民意識調査

- H25 地区の社協の全面的協力のもと、調査実行 単純集計と地区への報告書
- H26 クロス集計 考察（H27 報告書）
 - － 家族との対話が本人の人生に関わる選択をする際に影響を与えている可能性がある。
 - － 家族内の話し合いが住民意識の形成にとって重要なポイントになりそうである

3-3 コミュニティにおける 活動 (2-3(3)/3-3-3)

ナラティブホーム（富山県砺波市）

コミュニティにおける活動

- 調査への協力
- ものがたり在宅塾
 - H25 6回プラス1回
- 介護者のための臨床倫理セミナー
 - H26 本人・家族の意思決定支援の基礎
- 地域総合相談外来
 - H25から開始、H26本格的に活動

〈2014 年 9 月 28 日開催 臨床倫理セミナー in となみ〉



3-4 心積りゲーム 開発

原田PJ (みんラボ)

(2-3(4)/3-3-4)

「心積り」ゲーム

- 「領域・プログラム内プロジェクト間連携促進」経費による
- 研究開発PJ「高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発」（原田PJ）が協力グループ「〈みんラボ〉グループ」となり、担当
- 心積りノートの一般市民の間での普及促進のためのpromotion媒体（心積りをゲーム化したもの）の開発



取扱説明書

4人または6人用

シニアと家族の幸せのつくり方、
それを考える『キッカケ』を提供するゲームです。

あなたが要介護状態になったとき、家族は何を思うのだろう…
要介護状態になった親は何を望むのだろう…

前もって病気の予防をしますか？
病気になるまで趣味を優先しますか？
いざというときお金はありますか？

人それぞれ異なる価値観・人生観、
あなたの気持ちを『心積りボードゲーム』を通して表現してみましょう。

(参考) 評価項目ごとのまとめ

1. 目標の設定

- 研究開発領域の目標との関係

- － 領域目標(1)に関して：

- 聞き取り調査・参与観察・アンケート調査を通して、住民意識の現状と課題を確認しようとした
 - 心積りノートは課題解決の方策をツールとして提示する→ ADに代るツールのプロトタイプとなる

- － 領域目標(2)に関して：

- 心積りノートは、「研究開発の手法」ではないが高齢社会の問題解決に寄与し得る手法である

- － 領域目標(3)に関して：

- 心積りノートを核としたネットワーク形成が期待でき、それが人々の意識のアップデートをさらに推し進めることが期待できる

2. 社会的貢献

- 本人・家族の適切な意思決定プロセスが実現していない現状に対して、**阻害要因への対策を「心積りノート」を核として提出した**→高齢社会をよりよい状態にする貢献が期待できる
- ADやエンディングノートがいわば**「終活」**のためのツールであるのに対して、心積りノートは「上手に老い、最期まで自分らしく生きる」いわば**「老活」**のためのツール（**終活も兼ねる**）
：社会に今必要なもの

3. 学術的・技術的貢献

- ADからACPへの流れに対して、ACPをAD目的のものに終わらせないで、**今から自分の最期までを見通した〈心積り〉を目指すものへと改訂する提案**として学術的に貢献
- 健康寿命を延ばし、認知症にならないようにする研究開発活動に対して、**健康寿命の先に必ず来る、介護等を必要とする時期をどう生きるか・どうケアするか**に対応する社会技術
- 「フレイル」概念を、ある**医療を受ける・受けないを左右するものとして導入**した。このようなフレイル理解の応用は、今後日本でも増えていくはずだが、その**先駆け・モデル**になる

4. 実施体制と管理運営

- 調査員が東京グループと砺波コミュニティグループの協働を象徴する立場にあり、調査が両グループの共通の関心事となった → 全体としての協働体制
- 当初計画にはなかったアンケート調査のため、予算を修正して、東京GからコミュニティGに移動させるなど、柔軟に対応できた。
- H27年度 原田PJみんなラボとの協働を短期間であったが、やり遂げた

6. 費用対効果

- 研究開発費の主たる用途は次の通り
 - － 調査員雇用
 - － 意識調査の集計・分析・報告書印刷
 - － 心積りノート開発（経費は大半が、業者に発注した電子化一デザインと印刷製本である）
 - － イベント開催
 - － 心積りゲーム開発（別枠研究費）
- これらの支出は必須であり、心積りノートおよび調査報告書に研究開発の成果が集約されている。支出に十分見合う結果を得たと自己評価

おわりに 本成果の意義の核心

- AD ACP のさらに先に行く
– **高齢者の「老活」（終活も兼ねる）支援**
- 現在、健康寿命を延ばすことに集中
「だが、健康寿命の先はどう過ごすのか」
・・・これに本プロジェクトは応えている

☆ 砺波のコミュニティがあることで、住民として見る層があつくなった

☆ 心積りゲームのプロモーション媒体としての活動に期待

おわりに 本成果の意義の核心

- AD ACP のさらに先に行く

– 高齢者の「老活」（終活も兼ねる）支援

- 現在、健康寿命を延ばす
「だが、健康寿命の先」
・・・これに本プロジェクト

☆砺波のコミュニティがあること
あつくなった

☆心積りゲームのプロモーション

- ・終わりまで心積り
- ・健康寿命の先は、引き延ばそうとしない
- ・フレイル（心身の老化）の進行に相対的な医学的推奨
＋人生についての理解

→ 文化の創成



報告は以上です